



日耳鼻医会

FAXニュース

平成26年2月4日発行 第210号

◎平成25年度第5回全理事会開かれる

1月19日午後0時半より日耳鼻医会事務所で全理事会が開かれた。報告事項協議事項概要は以下の通り。

報告事項: 1) 庶務報告 2) 第39回臨床家フォーラム進捗状況 3) その他

協議事項:

- 1) 健保連の耳鼻科処置への政策提言への対応について健保連に日耳鼻医会の考えと要望を文書にして送ることにした。
- 2) 未加入医会・退会医会との話し合いについて一出来るだけ接触を図り、まず医会の必要性を理解してもらうよう努力することにした。
- 3) 広報活動の充実について一会員専用のホームページの作成、会誌“かがみ”の編集のあり方、FAXニュースの担当者などについて討議した。
- 4) 平成26年の第40回臨床家フォーラムについて一節目にあたるので早めに方針を決定することにした。
- 5) 医会長協議会を踏まえての当会の活動についてまずは組織の強化が必要であるとともに、ネットワークを張り巡らして、何が必要とされているか、何が問題となっているか吸い上げてゆくことが大切で、出来るだけ会員から情報を集めることにした。
- 6) 平成25年度第6回全理事会は3月16日に開催

■初診料120円上げへ

厚労省案一本化 増税コスト上乗せ

厚労省は4月の消費増税に伴う病院や診療所の料金引き上げについて、初診料を120円上げて2820円に、再診料を30円上げて720円にする案に絞る方針を固めた。消費増税に伴う医療機関のコスト増を初診料などの料金に上乗せする。2014年度からの適用に向け、2月中旬までに決める。

29日に開く中医協に厚労省案を示す。初・再診料のほか、200床以上の病院の外来診療料を30円、入院基本料を2%などと引き上げる。歯科でも初診料を160円、再診料を30円上げる。診療の中身にかかわらず、患者に幅広く負担が及ぶ。

政府は昨年末、14年度の診療報酬改定で1.36%を引き

上げることを決定、初診料などの上げ幅を検討していた。厚労省の一本化案に対しては健保組合などの反発が必至。初・再診料の上げ幅が4%台と消費税率の引き上げ幅3%を超えることに「国民の理解が得られない」と難色を示す見通し。だが厚労省は「基本料金への上乗せがわかりやすい」として押し切る構え。(日経新聞1月29日)

■知識・経験有す医師に限定

－スギ花粉舌下療法で留意事項

厚労省医薬食品局審査管理課は、17日付で承認された鳥居薬品の花粉症治療薬「シダトレンスギ花粉舌下液200JAU/mLポトル、同舌下液2000JAU/mLポトル、同舌下液2000JAU/mLパック」の使用時の留意事項をまとめ、各都道府県に通知した。

同剤は、スギ花粉症のアレルギーの原因となる物質を直接舌下に滴下することで、徐々にアレルギーに対する過敏性を減少させていく減感作療法の効能・効果を有しているが、留意事項では、誤った使用によって症状の悪化を招く恐れがあるため、同剤の処方・使用は、舌下投与による減感作療法に関する十分な知識、経験を持つ医師に限定することを明記。

処方医には、鳥居薬品が実施する減感作療法に関する講習や、シダトレン適正使用に関する講習の受講を求めると共に、講習を修了した医師のデータベースへの登録を求めた。薬剤師は、処方医が講習修了医師であることを確認した上で調剤を行うなどの流通管理を行い、適正使用を図ることを求めた。(薬事日報 1月22日(水) 配信)

■クラシック音楽が効果 原因不明の突難

自然科学研究機構生理学研究所(愛知県岡崎市)のチームが「突発性難聴」の患者を対象に聞こえにくい耳を使ってクラシック音楽を聴き続けて貰う実験をした結果、高い治療効果があることを突き止めた。英科学誌電子版に発表した。チームの岡本特任准教授(神経科学)は「安価で副作用のない新たな治療法につながる」と期待している。実験では発症間もない患者約50人を2つのグループに分類。片方のグループはステロイド治療のほか、正常な耳をふさぎ、難聴の耳で毎日約6時間、クラシックを聴き、日常生活音もすべて難聴の耳で聞いてもらった。

約10日後に調べると、左右で25dBあった聴力差が7dBほどまで縮小、ステロイド治療だけだと15dBほど差が残っていた。(日経新聞1月30日)

■万能細胞簡単に作成 理研が新手法

理化学研究所などは29日、様々な臓器や組織の細胞に成長する新たな「万能細胞」を作製することにマウスで成功したと発表した。成果は30日付けの英科学誌ネイチャーに掲載される。iPS細胞よりも簡単な方法で、効率よく短期間で作製出来るという。人間の細胞でも成功すれば病気や事故で失った機能を取り戻す再生医療への応用が期待される。

理研の小保方リーダーらはマウスの細胞を弱い酸性の溶液に置いて刺激を与える事により、様々な組織や臓器の細胞に育つ能力を引き出した。「刺激惹起性多能性獲得」の英語の頭文字からSTAP(スタップ)細胞と名付けた。STAP細胞を培養したり、マウスの体内に移植したりすると、神経や筋肉、腸など様々な細胞に変化、iPS細胞では困難だった胎盤に育つことも確かめた。人間の細胞からSTAP細胞が作れるかは不明。(日経新聞1月30日)

◆新書紹介◆ (中外医学社2013年11月発刊)

グレートクリニックを創ろう

ドラッグー理論を経営に活用する本

内藤孝司

(株) 椋みはなのどクリニック院長

梅岡比俊

(株) 梅華会耳鼻咽喉科グループ理事長兼CEO

グレートクリニックとは単に収益が大きい大規模のクリニックのことではない。崇高な理念のもと医師、その他医療従事者が自らの使命を理解し、自院に対して強い誇りを持ち、独自の文化を築き上げ、持続的な成長を続けることが出来るクリニックのことである。(本書より引用) (定価2800円+税)



生きる喜びを、もっと
GlaxoSmithKline Do more, feel better, live longer

定量噴霧式アレルギー性鼻炎治療剤

処方せん医薬品(注意一医師等の処方せんにより使用すること) 薬価基準収載

アラミスト® 点鼻液27.5µg 56噴霧用

Allermist® 27.5µg 56metered Nasal Spray

 フルチカゾンフランカルボン酸
エステル点鼻液

※「効能・効果」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については添付文書をご参照ください。

製造販売元(輸入)

グラクソ・スミスクライン株式会社

TEL: 0120-561-007 (9:00~18:00/土日祝日および当社休業日を除く)

FAX: 0120-561-047 (24時間受付)

2010.5

発行 (特)日本耳鼻咽喉科医会

〒104-0031東京都中央区京橋2-11-8全医協連会館5F

TEL(03)5524-5230 FAX(03)5524-5228

HP: <http://www.jenti.or.jp> E-mail jimu@jenti.or.jp

当会への要望・意見・相談をお寄せ下さい